令和3年度 前期卒業式 式辞

吹く風に秋の気配が感じられる爽やかな今日の佳き日、保護者の皆様のご出席を賜り、ここに令和3年度兵庫県立西宮香風高等学校前期卒業証書授与式を挙行できますことを、心から感謝申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました5名の卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。教職員一同、心よりお祝い申し上げます。今日の卒業の日を迎えるまでには、通り一遍の言葉では言い表すことのできない、たくさんの出来事があったことだと思います。それらの日々を乗り越えてきたみなさんの努力に対して、深い敬意を表したいと思います。

保護者並びにご家族の皆様、本日は誠におめでとうございます。 立派に卒業の日を迎えられたお子様の姿に、感慨もひとしおのことと存じます。また、この場をお借りいたしまして、これまで本校にお寄せいただきましたご支援、ご協力に深く感謝を申し上げます。

さて、5名の卒業生のみなさんが過ごした高校生活の、とりわけ最後の1年半は、新型コロナウィルス感染症の拡大による、世界の混乱と戦いの日々を抜きに語ることはできません。学校現場も例外ではなく、様々な行事や授業が中止や変更を余儀なくされました。みなさんには本当に申し訳ない気持ちでいっぱいです。また、いわゆるエッセンシャルワーカーと呼ばれる職種の中で、スーパーやコンビニなど生活必需品の販売に携わる機会の多い定時制高校生は、大きな不安の中でも懸命に社会インフラを支えてくれました。みなさんがこの1年半、それぞれの生活の中で目にし、経験したことは、将来に亘って貴重な財産となることと思います。

そのようなみなさんに、今日は一つだけお伝えしたいことがあります。

それは「あたりまえの『暮らし』を全力で支え、愛おしみ、守り続けてほしい」ということです。

「暮らし」とは何か。それは「食べること」、「眠ること」、そしてその二つを支える「働くこと」が、日常としてきちんとそろっているということです。ところが「食べること」と「眠ること」、「働くこと」とがあたりまえのようにあると思っていた世界は、このコロナ禍で大きく揺らぎました。いや、それは度重なる震災や豪雨災害に見舞われたたくさんの方々にとっては、何を今さら、ということになるのかもしれません。ともすれば私たちが、あってあたりまえのように思ってしまう「暮らし」は、こうした疫病や天災、個人のけがや病気、ひょっとしたら戦争によって、ある日突然、いとも簡単に失われてしまうものでもあるのです。ですからみなさんにはこのような時代に高校生活を送ったものとして、「暮らし」の大切さと危うさを自覚し、その「暮らし」と、そこで共に過ごす大切な人を支え、愛おしみ、全力で守り抜く人となってほしいのです。

高校卒業後の人生は、決して平坦ではなく、いくつもの山や谷を越えてゆくことになるでしょう。その道のりを歩き続けるみなさんの支えとなるのは、特別な技能でも不確かな運でもなく、「暮らし」です。「食べること」、「眠ること」そして「働くこと」です。もしここに「笑うこと」を付け加えることができたら、もう最強だと思います。

どうかしなやかに、そして強かに生きてください。そのような生き方の向こう側には、必ずやあなたのことを認め、温かく見守り、寄り添ってくれる人との出会いがあります。そう、信じています。

みなさんの前途が明るく、幸多いことを心からお祈りして、式辞といたします。

令和 3 年9月30日

兵庫県立西宮香風高等学校
校長 谷口 暢謙